## 遠隔コミュニケーションにおける 発話衝突低減手法

平成24年度

玉木 秀和

主 論 文 要 旨

<ul> <li>報告番号 (甲)乙第 号 氏名 玉木秀和</li> <li>主論文題目:</li> <li>遠隔コミュニケーションにおける発話衝突低減手法</li> <li>(内容の要旨)</li> <li>環境負荷低減、出張費削減などが求められるなか、遠隔会議システムの需要が増加してきている.</li> <li>遠隔会議システムのなかでもWeb 会議システムは、複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである.</li> <li>しかし、複数の拠点を結んで行うWeb 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取ることは困難である。個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくなってしまうことが多い、また、帯域の保証されていないネットワーク上でWeb 会議を実施する場合、映像や音声は遅延して伝達される.</li> <li>そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる。新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議を行う場合、発話衝突は大きな弊害になると考えられる.</li> <li>本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノートパソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする.</li> <li>発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した。Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ</li> </ul>			
主 論 文 題 目: 遠隔コミュニケーションにおける発話衝突低減手法 (内容の要旨) 環境負荷低減,出張費削減などが求められるなか,遠隔会議システムの需要が増加してきている. 遠隔会議システムのなかでも Web 会議システムは,複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席 のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである. しかし,複数の拠点を結んで行う Web 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取るこ とは困難である. 個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため,小さくな ってしまうことが多い.また,帯域の保証されていないネットワーク上で Web 会議を実施する場 合,映像や音声は遅延して伝達される. そのため,Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合,参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そ のような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって,Web 会議において創造会議を行う場合, 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は,Web 会議での発話衝突を低減することにより,自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも,創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために,まず発話衝突の原因とその影響について調査し た.Web 会議において,音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて,実験を行っ			
遠隔コミュニケーションにおける発話衝突低減手法 (内容の要旨) 環境負荷低減、出張費削減などが求められるなか,遠隔会議システムの需要が増加してきている. 遠隔会議システムのなかでも Web 会議システムは、複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席 のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである. しかし、複数の拠点を結んで行う Web 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取るこ とは困難である. 個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくな ってしまうことが多い. また、帯域の保証されていないネットワーク上で Web 会議を実施する場 合、映像や音声は遅延して伝達される. そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる. 新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議を行う場合, 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査し た. Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
(内容の要旨) 環境負荷低減,出張費削減などが求められるなか,遠隔会議システムの需要が増加してきている. 遠隔会議システムのなかでも Web 会議システムは,複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席 のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである. しかし、複数の拠点を結んで行う Web 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取るこ とは困難である. 個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくな ってしまうことが多い. また、帯域の保証されていないネットワーク上で Web 会議を実施する場 合、映像や音声は遅延して伝達される. そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる. 新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そ のような会議では話者交替が頻繁に起こる. したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査し た. Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
<ul> <li>(内容の要旨)</li> <li>環境負荷低減、出張費削減などが求められるなか、遠隔会議システムの需要が増加してきている.</li> <li>遠隔会議システムのなかでもWeb 会議システムは、複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである.</li> <li>しかし、複数の拠点を結んで行うWeb 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取ることは困難である.個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくなってしまうことが多い.また、帯域の保証されていないネットワーク上でWeb 会議を実施する場合、映像や音声は遅延して伝達される.</li> <li>そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そのような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、発話衝突は大きな弊害になると考えられる.</li> <li>本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノートパソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする.</li> <li>発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ</li> </ul>			
<ul> <li>(内容の要旨)</li> <li>環境負荷低減、出張費削減などが求められるなか、遠隔会議システムの需要が増加してきている.</li> <li>遠隔会議システムのなかでもWeb 会議システムは、複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである.</li> <li>しかし、複数の拠点を結んで行うWeb 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取ることは困難である. 個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくなってしまうことが多い.また、帯域の保証されていないネットワーク上でWeb 会議を実施する場合、映像や音声は遅延して伝達される.</li> <li>そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そのような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、発話衝突は大きな弊害になると考えられる.</li> <li>本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノートパソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする.</li> <li>発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ</li> </ul>			
(内容の要百) 環境負荷低減,出張費削減などが求められるなか,遠隔会議システムの需要が増加してきている. 遠隔会議システムのなかでもWeb会議システムは,複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席 のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである. しかし,複数の拠点を結んで行うWeb会議において,参加者が互いの様子を正確に読み取るこ とは困難である.個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため,小さくな ってしまうことが多い.また,帯域の保証されていないネットワーク上でWeb会議を実施する場 合,映像や音声は遅延して伝達される. そのため,Web会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合,参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ,そ のような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって,Web会議において創造会議を行う場合, 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は,Web会議での発話衝突を低減することにより,自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査し た.Web会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
<ul> <li>環境負荷低減、出張負荷減などが味められななが、速隔去識システムの需要が増加してきている。</li> <li>遠隔会議システムのなかでもWeb 会議システムは、複数の離れた拠点にいる会議の参加者が自席のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである。</li> <li>しかし、複数の拠点を結んで行うWeb 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取ることは困難である。個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくなってしまうことが多い、また、帯域の保証されていないネットワーク上でWeb 会議を実施する場合、映像や音声は遅延して伝達される。</li> <li>そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる。新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そのような会議では話者交替が頻繁に起こる。したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、発話衝突は大きな弊害になると考えられる。</li> <li>本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノートパソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする。</li> <li>発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した。Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ</li> </ul>			
<ul> <li>風福会蔵シスケムのながくも、Web 会蔵シスケムは、後数の角的に急速点にいる会融の参加省が自加 のデスクトップパソコンやノートパソコンから容易に参加できるシステムである.</li> <li>しかし、複数の拠点を結んで行う Web 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取ることは困難である.</li> <li>個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくなってしまうことが多い.</li> <li>また、帯域の保証されていないネットワーク上で Web 会議を実施する場合、映像や音声は遅延して伝達される.</li> <li>そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる.</li> <li>新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そのような会議では話者交替が頻繁に起こる.</li> <li>したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、</li> <li>発話衝突は大きな弊害になると考えられる.</li> <li>本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノートパソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする.</li> <li>発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した.</li> <li>Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ</li> </ul>			
しかし、複数の拠点を結んで行う Web 会議において、参加者が互いの様子を正確に読み取るこ とは困難である. 個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくな ってしまうことが多い. また、帯域の保証されていないネットワーク上で Web 会議を実施する場 合、映像や音声は遅延して伝達される. そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる. 新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そ のような会議では話者交替が頻繁に起こる. したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査し た. Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
とは困難である. 個々の参加者の映像はディスプレイを分割した領域に表示されるため、小さくなってしまうことが多い. また、帯域の保証されていないネットワーク上でWeb 会議を実施する場合,映像や音声は遅延して伝達される. そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる. 新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そ のような会議では話者交替が頻繁に起こる. したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した。Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
ってしまうことが多い.また、帯域の保証されていないネットワーク上でWeb 会議を実施する場 合、映像や音声は遅延して伝達される. そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そ のような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査し た.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
<ul> <li>合、映像や音声は遅延して伝達される.</li> <li>そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そのような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、 発話衝突は大きな弊害になると考えられる.</li> <li>本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノートパソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする.</li> <li>発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ</li> </ul>			
そのため、Web 会議において話者交替が頻繁に起こる会議を実施した場合、参加者同士の発話が 衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そ のような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査し た.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
衝突することが多く見受けられる.新しいアイデアを考えだすための会議は創造会議といわれ、そのような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって、Web 会議において創造会議を行う場合、 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
のような会議では話者交替が頻繁に起こる.したがって,Web 会議において創造会議を行う場合, 発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は,Web 会議での発話衝突を低減することにより,自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも,創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために,まず発話衝突の原因とその影響について調査し た.Web 会議において,音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて,実験を行っ			
発話衝突は大きな弊害になると考えられる. 本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
本研究は、Web 会議での発話衝突を低減することにより、自席のデスクトップパソコンやノート パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した.Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
パソコンからでも、創造会議を快適に行える遠隔会議環境を実現することを目的とする. 発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した. Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
発話衝突を低減させる手法を模索するために、まず発話衝突の原因とその影響について調査した. Web 会議において、音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて、実験を行っ			
た. Web 会議において, 音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて, 実験を行っ			
た. Web 会議において, 音声遅延が発話衝突に大きな影響を与えるという仮説をたて, 実験を行った。 文書 図び見た 恋いたい ス文書 合義 開始た 田奈川 - 文書 図び見し 恐乏(新知) - たたえ ゆうにす			
た. 首声遅処重を変化させられる首声会議環境を用意し、首声遅処重と発詰衝突、またそれらに応じて参加者の受ける特徴的ストレスの関係な調べた。本字験環境では、立言遅延量が400mmonのない			
して参加者の受ける精神的ストレスの関係を調べた。本実験環境では、音声遅延量か400msecを 			
超える場合には光砧側矢帷半が増入し、精仲的ストレスが高よる結果となった。半研先が対象とす ス Wab 全議の環境では辛苦遅延量が 400msoc を招うろことが多いため 発話衝空確率を低減させ			
るWeb 去職の現現では自戸建理里が400msec を超えることが多いため, 先話個矢帷竿を似成させる。 ストレが望まれる			
るここが主まれる。 木論立で掲安する発手衝空低減毛注け、次手考促補提示毛注と発手欲求伝達毛注かに構成され			
ス 次話者候補提示手法は、システムが会議参加者各々の予備動作を検知し、その種類と頻度から			
次に最も発話しそうな参加者を次話者候補として選定し、すべての参加者へ伝達する手法である。			
発話欲求伝達手法は、システムによって推定された発話欲求の度合いを随時参加者に提示すること			
により、参加者自身に予備動作の調整を促し、発話欲求の推定精度を高める手法である。これらの			
手法の有効性を確認するため、両方の機能を組み込んだプロトタイプシステムを実装し、通常の			
Web 会議システムとの比較実験を行った.実験結果より、本提案手法が発話衝突確率を半分以下に			
低減できることを確認した.			

## SUMMARY OF Ph.D. DISSERTATION

School	Student Identification Number	SURNAME, First name
School of Science for Open and Environmental Systems	80946801	TAMAKI, Hidekazu

## Title

A Method of Reducing Speech Contention in Distributed Communication

## Abstract

This research aims to realize an environment that facilitates creative, idea-generating meetings among remote participants. Currently, web conferencing is widely adopted because people can save on installation and travel costs. Web conferencing systems, however, provide inferior video and voice quality compared to specialized video conferencing systems, making it difficult for meeting participants to be aware of the other participants' movements and subtle changes in facial expression. Such deficiencies make it difficult to detect when others want to take the floor, and speech contentions become frequent.

One of experiments this thesis describes investigates the influence of speech delay on speech contention and psychological stress. Results show that greater speech contention rates occur when audio delay is over 400 milliseconds, and longer audio delays cause higher stress.

This thesis introduces a concept in which a system detects participants' nonverbal information and then presents that information to other participants. It is well known that face-to-face communication reduces speech contention and facilitates smooth turn-taking through the use of nonverbal information. However, participants cannot detect others' nonverbal information in Web conferences. The proposed method introduced in this thesis determines the participant who is most likely to speak based on several common body motions and vocal cues that precede floor-taking, and then introduces him/her to the other participants.

Several improvements to the proposed method have also been made in order to increase the accuracy of communicating participants' desire to speak. These improvements allow participants to use an indicator to visually confirm how strong their own "desire to speak" is as detected by the system, and then adjust their behavior to ensure the indicator reflects their actual desire to speak. Evaluation results demonstrate that the proposed method has a potential to prevent speech contention and ensure smooth turn-taking in Web conferences.